

令和7年度

幼保連携型認定こども園 常葉大学附属たちばな幼稚園

学校評価委員会（報告書）

令和7年度 幼保連携型認定こども園 常葉大学附属たちばな幼稚園 学校関係者評価表

○ 教育目標 美しい心、よく動く体、豊かな感性と社会性を持った子どもの育成

1 目指す子どもの姿

・明るい子 ・健康な子 ・がんばる子 ・心豊かな子

A 達成 B ほぼ達成 C 努力が必要 D 達成できていない

項目	具体的な目標	自己評価	結果・課題	関係者評価
1 明るい子	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な遊びにも意欲的に参加できる。 ・挨拶ができる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が遊ぶ姿に興味を持ち、真似してやってみようとする姿が見られている。また、名前を呼ぶと返事をしたり、簡単な挨拶をしたりすることが出来る。(0歳児, 1歳児) ・保育者自らが繰り返し挨拶をしていくことで、少しずつ子どもたちから挨拶ができるようになってきた。(2歳児, 満3歳児) ・朝の会の挨拶はどの子どもも大きな声で出来るが、自ら元気な挨拶をすることにはまだ課題がある。自ら好きな遊びを見つけ友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことが出来た。(3歳児) ・カプラやごっこ遊びなど自ら好きな遊びを見つけ意欲的に遊んでいる。(4歳児) ・アイデアを発信し、友達と一緒に取り組む姿が見られた。(4歳児) ・元気に挨拶出来る子が増え、気持ちよくスタートすることが出来る様になった。自分から挨拶する子は増えたが個人差がある。(5歳児) ・自分達で想像して遊ぶ事が少なかったが、友達のアイデアを取り入れたり自ら発信した遊びと一緒に楽しむようになったりと意欲的に遊ぶ子が増えた。(5歳児) ・次の活動に移行する時など、具体的にイメージを伝えどのような気持ちで取り組んだらよいかを考えられるようにする事で、はじめや協調性を持って取り組めるようにしてきた。(5歳児) 	A
2 健康な子	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味に向かい、心と体を十分に働かせる。 ・喜んで食べる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・手掴みやスプーンを使って自分で食べようとする。(0歳児, 1歳児) ・食事の前や戸外遊び後に手洗いをする習慣がついた。また手洗いの際に袖を上あげようとする事も身につけてきた。(0歳児, 1歳児) ・手足の動かし方が上達し、のびのび体を動かして園庭で遊ぶことができた。(2歳児, 満3歳児) ・手洗いに加え、排泄も概ね自立している。(2歳児, 満3歳児) ・小集団の鬼ごっこや今まで経験したことがなかった総合遊具・木登り等に自ら挑戦する中で、友 	

		A	<p>達や異年齢児とも楽しく過ごすことが出来た。(3歳児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食に対しての意欲は育ってきているが個人差が大きく、個別支援を要する。今後も食べる楽しさを感じられるよう工夫したい。(3歳児) ・クラス対抗リレーに意欲的に取り組むようになり勝負の面白さを感じるようになった。(4歳児) ・野菜の栽培を通して、生長を気かけながら進んで世話をすることができた。(4歳児) ・朝、駐車場の時間が終わり次第早めに戸外に出て遊ぶ中で体を動かす事が大好きになり、難しい事に挑戦し、自分達で遊びを進める楽しさを味わった。(5歳児) ・栽培やクッキングを通して旬の食材を味わい、食材を変えて同じメニューを作る事で味、香り等の違いを感じる機会を作る事が出来た。苦手な物に挑戦しようとする気持ちが育った。(5歳児) 	A
3.がんばる子	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から興味をもって取り組み、最後までやり抜く。 ・考え工夫したりすることを楽しむ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の姿を見て真似をし、衣服の着脱を自分でやってみようとする姿が見られている。(0歳児,1歳児) ・見立てて遊ぶなど、0・1歳児なりに考え工夫して遊ぶ姿が見られるようになってきた。(0歳児,1歳児) ・衣類の着脱、身支度など、自分の力でやってみようという気持ちを子ども自身で持つことができるようになった。(2歳児,満3歳児) ・自分の力でやってみようとする気持ちが育つよう援助し、家庭にも協力を仰ぎ、少しずつ自分で出来ることが増えてきた(3歳児) ・身辺材遊びでは経験を重ねる中で、試行錯誤し友達の真似をして工夫する姿が見られるようになった。(3歳児) ・縄跳びチャレンジカードに挑戦し、諦めず繰り返し練習する姿が見られた。(4歳児) ・目標が明確な事に対しては繰り返し取り組み、最後までやり抜く姿が見られた。(5歳児) ・サークルタイムや話し合う機会を意図的に作り、自分達で考える事で仲間と工夫しながら行事や活動・クッキング等に意欲を持って取り組むことが出来た。(5歳児) 	A
4.心豊かな子	<ul style="list-style-type: none"> ・心動かす出来事に多く触れ、伸び伸び表現する。 ・身近な人と関わり、感性を育む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・友達の存在に興味を持ち、名前やその子の持ち物を覚え、渡してあげようとするなど、思いやる心が芽生えてきている。(0歳児,1歳児) ・言葉を使って、友達とやりとりをしながら自分達で遊びを楽しむことができるようになった。(2歳児,満3歳児) ・遊びの中で友達を意識し一緒に遊びたいという思いが育っている。(2歳児,満3歳児) ・困っている子がいると声をかけたり、手を差し伸べたりする子が多い。生活の中で保育者の手伝いを積極的に行い、クラスの垣根を越えて声を掛け合う姿が見られるようになった。その中で相 	

		B	<p>手の気持ちに気付くこともできるようになってきた。(3歳児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じた事や考えた事を言葉で表現することができる子が多いが、最後まで落ち着いて話を聞く姿には課題が残る。(4歳児) ・園でのごっこ遊びで楽しんだ事や、イメージしてきた事を実際に体験する機会を作る事で遊びとの繋がりを持つ事が出来、友達と相談しながら表現する姿が見られた。(5歳児) ・友だちを遊びに誘い、困っている子を助けようとする姿が見られた。自分の気持ちは素直に伝えるが、相手の気持ちを考えずに行動する場面も多々あり繰り返し伝えてきた。自分でもっと考える場面を作っていく必要があった。(5歳児) 	B
関係者評価より	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの「もっと」が見えたエピソードとして、生活発表会が延期になり、それまではどこか人任せだったが、子どもからの「もっと頑張りたい！」という声上がり、それぞれが自分の生活発表会として取り組むようになった。主体的なところを出すこともできた。 ・4歳児のチャレンジカードが「やってみよう！」に繋がって面白い取り組み。縄跳び以外にも竹馬や鉄棒に挑戦することにも繋がっている。 ・個人的にも集団でも「もっと」という事を今後も大切にしていきたい。「もっと」には主体性や探求心の育ちや可能性が含まれている。その可能性を引き出すようにして欲しい。「もっと」がとてもいい。 ・保育室の壁を開放したことで学年間のかかわりはもちろん、異年齢のかかわりが見られたことが良かった。 			

2 運営の重点

A 達成 B ほぼ達成 C 努力が必要 D 達成できていない

学年	具体的な目標	自己評価	結果・課題	関係者評価
1 幼保連携型認定こども園としての円滑な運営	<ul style="list-style-type: none"> ・課題等に対する職員の協働態勢の推進 ・職員の健康維持やワークライフバランスに対応した働き過ぎの防止(働き方改革関連の法改正への対応) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・業務分担は、分掌を中心に職員同士が主体的に取り組み、機能的で発展的な職員組織を構築できるよう、課題に対して話し合いを重ね、最善策を出し協力する体制の維持ができているので、今後も続けていきたい。 ・職員は報告・連絡・相談を確実に言い、円滑な組織運営に努めるよう意識して動いているが、全職員が一堂に会することが難しいため伝達事項は毎日、文字化して非常勤職員とも情報共有している。 ・日常から職員同士声を掛け合い、日々の生活や行事の時、また1年の中でも特に年度初めや年度末の繁忙期等には、学年の垣根を越えて協力し合い、相互の信頼関係を大切にしている。 	A

<p>2 子どもの健康・安全の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人の健康状況の把握と、職員間での適切な情報共有に努める。 ・子どもが安全に過ごせる園の環境づくりに努める。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体調の把握や視診を丁寧に行う。変化や怪我等がある時は管理職に連絡と報告を行い二重の確認をすることで情報共有している。全職員が共有できるよう職員室のホワイトボードを活用し対応を怠らないように努めている。 ・安全、安心に留意した保育を行えるよう全職員の研修等で職員同士が学び合えるよう時間の確保をしている。 ・園庭での遊びが安全に行えるよう危険箇所を何度も点検や確認を行い、報告し職員同士共有することで安全に遊べる園庭環境づくりに努めている。 	<p>A</p>
<p>3 充実した保育・教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の三つの柱と、その具体的目標である幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を念頭においた質の高い保育・教育に努める。 ・遊びを主とした、子どもの主体的な取り組みを促す環境づくりに努める。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達が主体となり遊びを進めていく為の環境づくりを引き続き心掛けていった。保育者が答えを導いてしまうのではなく、子供達が試行錯誤しながら遊びを進められるよう十分に時間を確保するよう努めた。学びに繋がるような援助とは何かを考え、子供達同士の対話を大切にしながら協同活動を多く取り入れるようにした。これからも保育者と子供達が保育を作り上げることを大切にしたい。 ・育ってほしい10の姿を意識しているが、幼児理解の読み取りを更に深められるようにした。また振り返りや記録のポイントを押しえられるよう保育者間の情報共有をしていった。 	<p>A</p>
<p>4 園行事の適切な実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主旨や目的を明確にした、子どもが充実感や達成感を育む園行事の計画・実施に努める。 ・保護者支援や地域への情報発信に努める。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通し行っている行事・活動・参観会や自由参観等は、子供達の主体性を大切に、園として各学年がねらいを持って行なっている。今後も継続して園に対する保護者の理解を深められるよう工夫していく必要がある。 ・地域の子育て世帯に対し遊びの場を提供するために、7年度は未就園児教室として、「あそびの会」と「園庭開放」を4回/年ずつ実施し、親子で楽しく参加していただいている。在園児とのふれあいを毎回計画し好評を得ている。8年度は各年齢に応じてより楽しめるよう会の名称・内容を変更し、気持ちを一新にし行なっていく。 	<p>B</p>

5 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・大学、短期大学部及び附属園・校との研修協力、実習協力、交流等を行い、附属園としての役割遂行に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大学・短期大学部・中高は交流実習などの受け入れや講義に参加する事での連携ができた。たちとこなつまつり、学生が主催するあそびの会に参加。草薙キャンパスに遊びに行く機会が増えた。 ファミリーデーでは、初めて瀬名キャンパスを借用し広いグラウンドで行った。 ・4歳児が小学校に行き、1年生と一緒に遊び交流をした。4月はスタートカリキュラムで職員が小学校に出向き、1学期には1年生の授業を参観。8月に幼小研修会で、接続期について共通理解をはかり学ぶ機会となった。 	A
6 職員及び職員組織の力量の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・職員各自の自己目標の設定、進捗状況の確認や評価を行い、意識化を高めた取組を促す。 ・OJTの意識を持った日常的な研鑽をすすめ、園全体で取り組む研修に向けた協同的な研修による力量の向上に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園内外の研修に積極的に出向き、またオンライン配信等、各々が学ぶ機会が増えた。 ・園内研修では、今年度は人間関係に視点をおき、～もっと『仲間』と繋がり、育ち合おう～のテーマを掲げ、異年齢、同学年、保育者を含めた『仲間』に着目しかかわりからの育ちを読み取り、実践に繋げていくための具体的な方法や育ちや課題、悩みを共有してきた。自然なかかわりが生まれやすい環境をこれからも目指し育ち合いに繋げていきたい。 ・今年度は全日本私立幼稚園幼児教育研究機構、公開保育を活用した幼児教育の質向上システム（ECEQ）に本園が実施園となり10月に公開保育を行なった。静岡県内の先生方が来園し、本園の良さを引き出していただき協議することで、さらにより深く保育を目指していくきっかけとなった。 	A
関係者評価より	<ul style="list-style-type: none"> ・「たちとこなつまつり」スクールバスの送迎があることは保護者にとって良いことである。保育学部と保育科だけが学生との交流が持てることは良いと思う。学生が準備している時、とても盛り上がっている姿を見ることができた。 			

3 各学年の重点

A 達成 B ほぼ達成 C 努力が必要 D 達成できていない

学年	具体的な目標	自己評価	結果・課題	関係者評価
0 歳児	<p>「身近な保育者と信頼関係を築き、安心して過ごす。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人のリズムで生活し、安心して過ごす。 ・ 様々なものに好奇心と興味を持ち楽しむ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の生活リズムに合わせゆったり安心して生活できるよう保育を進めてきた。 ・ 保育者や友達と触れ合う中で心を通わせながら楽しく遊ぶ経験を積み重ねてきた。 ・ 生活の中で徐々に言葉の意味を理解し行動に結びついていった。 ・ 友達の名前を呼び、触れ合う姿が見られるようになってきた。 ・ 嫌がらずにオマルやトイレに座る事ができるようになった。排尿の感覚に気づき始めた姿も見られる。今後も丁寧にトイレトレーニングに取り組んでいきたい。 ・ 食事面では月齢差が大きい為個々に合わせて手掴み食べからスプーンに移行している。また、初期離乳食から開始しほぼ幼児食となっている。一人一人の様子を見て咀嚼を確認し丁寧に見ていった。 ・ 異年齢の友達と遊ぶ機会があったことで水泥遊び等ダイナミックに遊んだり、真似をしてやってみようとしたり、様々なものに好奇心と興味を持ち、思い思いに楽しむ姿が見られた。 ・ 自我が芽生え始め、集団生活の中で友達を押ししたり、噛みつきのトラブルが増えてきている。今後も大きな怪我に繋がらないよう配慮しながら善悪を教えていくよう心掛けたい。 	A
1 歳児	<p>「保育者と信頼関係を築き、園生活を楽しむ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 好きな探索遊びを十分に楽しむ。 ・ 簡単な身の回りのことを自分でやってみようとする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分でやりたい気持ちや、やってみようとする姿を大切に受け止めながら方法を伝えたり、難しいところは援助したりしながら「自分でできた」という経験を重ねていけるよう進めていった。 ・ 食事面では、スプーンを使って自分で食べることが出来るよう、個々の様子に合わせて援助していった。少しずつスプーンの逆手持ちや三指持ちが定着してきた子もいる。 ・ 排泄面では、排泄の間隔を見て綿パンツに挑戦している。意欲的に取り組んだり、友達の姿を見て興味を持ったりする姿が見られるようになってきている。 ・ 友達への関心が高まり、語彙が増えてきたこともあり、友達と一緒に遊ぶ姿も見られ始めている。まだ上手くやりとりできない場面も多い為、保育者が代弁して伝えていくことで言葉での伝え方を少しずつ覚えていけるようにしていった。 	A
2 歳児	<p>「保育者や友達とのかかわりを深め、遊びを楽しむ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者や友達と安心 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の成長を見守りながら、安心していろいろなことに取り組むことができるよう援助していった。年度の後半は、子ども同士の関わりを大切に見守る事で自信を持って進級できるように援助していった。 ・ 生活習慣の自立も概ね身に付き、自分で取り組もうとする姿が多く見られる。 ・ 子どもの姿やその時々取り組みについて具体的に保護者に伝えていく事で、園と保護者が連携 	

	<p>して過ごす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な身の回りのことを行おうとする。 ・好きな遊びを見つけ楽しむ。 	A	<p>して子どもの育ちを共に支えていけるよう意識していった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自ら遊び出せるように何に興味を持っているのかを見とり、環境を作っていた。 	A
満3歳児	<p>「好きな遊びを見つけ友達と楽しむ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と安心して過ごす。 ・生活に必要な身の回りのことを行おうとする。 ・好きな遊びを見つけ友達と楽しむ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・入園時期が異なり様々な思いを抱えながら登園した子もいた為一人一人に丁寧に関わり、安心して園生活を送る事が出来る様にした。 ・排泄や食事、衣服の扱い等、園では子ども自身が意欲的に取り組めるよう職員間で共通意識を持ち一人一人に関わってきた。 ・子ども同士が言葉のやり取りを繰り返していく中で相手の気持ちに気付き、自分の気持ちに折り合いをつける姿も見られるようになった。 ・保育者が子どもの言葉を聞き、自分達で遊びが広がっていけるようにした事で楽しんで遊びに取り組む事ができた。 	A
3歳児	<p>「友達や保育者と一緒に好きな遊びを楽しむ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につける。 ・好きな遊びを伸び伸び楽しむ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣を身に付けるまでに時間を要した。個々に寄り添い励ましたり、促したりすることで自ら取り組むようになってきた。一人一人の子どもを丁寧に見とることや、保護者との共通理解をしていくことが必要だった。 ・保育者が話をする時に顔を見て話を聞こうとする姿が見られるようになってきたが集中が続かず、持続や姿勢の維持が難しい子もいた。子どもが興味を持てる環境を整えることで、集中する姿が見られるようになってきた。 ・自分のやりたい身近材制作や鬼ごっこ、総合遊具への挑戦やおままごとなどの遊びを通して、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうようになってきた。 ・困ったことを伝えられなかったり、言葉が足りず単語になってしまったりする様子が多々あるので、その言葉の選び方や正しい伝え方について援助が必要だった。 	A

<p>4 歳児</p>	<p>「いろいろな遊びに興味を持ち、友達との生活を楽しむ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・相手の話に耳を傾け、思いを伝え合う楽しさを知る。 ・その子なりに自分で考え選択し、試行錯誤しながら自分で決断しようとする。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな遊びを見つけ、のびのびと遊びを楽しむ姿が見られた。遊びを通して協同的な姿が見られるようになっていくと、友達とのかかわりもより深まっていった。 ・今年度より4歳児クラスも壁を開けて保育室を繋げて過ごした。遊びや活動の様子によってクラスごと、学年ごとと流動的に環境を作ることができ、遊びやかかわりの幅が広がったように思う。 ・遊びや生活の中で、自分の思いを言葉にして相手に伝えられる姿がある。しかし、一方的に伝えようとする姿や言葉の選び方にはまだ課題がある。また、遊びに夢中になると動きが大きくなったり我慢をしたりすることが難しい場面もまだある。相手の意見に耳を傾け、自分の気持ちを調整し、友達とともに解決に向かって考え合うことができるようになってほしいと願っている。 ・サークルタイムを積極的に取り入れてきたので、少しずつではあるが自分達で考えようとする姿が増えてきている。自分の意見を聞いてもらったり、相手の意見を聞いたりする経験から、互いの良さを認められるようになってきている。 ・友達から刺激を受けて関心を広げ、新しい遊びに挑戦しようとする姿や諦めずに取り組もうとする姿も増えてきている。困っていたら助け合ったり教え合ったりなど仲間意識の高まりも感じられる。 	<p>A</p>
<p>5 歳児</p>	<p>「友達と夢中になって遊び、認め合う気持ちを持つ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して友達の思いを受け入れ、集団で遊ぶことの楽しさを感じる。 ・自分で考え意欲的に取り組み、自信を持って生活する。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当初は自分で考えようとせず、好きな事ややりたい活動以外は、人任せにしてしまう様子が見られた。サークルタイムを取り入れ自分の意見を伝え、友達の意見を聞き受け入れる体験をする事で、活動や周りへの興味を広げ、仲間と意欲的に楽しむ姿が多く見られるようになった。 ・小集団から大きな集団へと遊びの形が変化し、ルール等伝え合い確認していく経験を重ね伝わる嬉しさや集団で遊ぶ楽しさを共有している。 ・クラスの壁を開けて生活するようになったことで自然にかかわりが生まれ遊びが盛り上がった。また、クラス内の倉庫に教材を揃えたりワゴンに集めたりしたことで動線が良くなり、意欲的に遊ぶことが出来た。 ・分かっている事、出来た事等は自信を持って行動に移したり声に出して伝えたりする事ができる。視野が広がり、周りの事に気付く事が増え、自分達で考え生活を進めようとする姿が増えた。 ・話を最後まで聞くことの大切さや落ち着いて行動することの大切さは、繰り返し伝えてきた。個人差がありまだ個別支援が必要な子もいるが、少しずつ意識の変化が見られ、集団としての育ちが感じられるようになってきた。 	<p>A</p>

関係者評価より

- ・一人ひとり個々の育ちを大切にしていると感じる。
- ・5歳児の生活発表会では期日を守ることが出来なかったことは反省すべきだが、この事を通して焦ったり困る気持ちを味わったり乗り越える力や自分たちのやる気を見せたりという、そこまでの経緯が経験としてかけがえがないものとして子どもたちは得られたのではないか。それは期日を守れなかった以上の収穫になっている。
- ・幼児期には遊びがメインである“遊び込むことの積み重ね”が子どもの主体性をつくっていき、遊び込む中で子どもたちなりに課題が改善されたりする。また年上の子が異年齢の子に優しくできるということは、そこに優しくできる環境を作ってくれてあるからこそということであり、園の強みとしてこれからも遊び込んでいる友だちや周りに興味を持ち、協同に繋げ遊び込める環境作りを今後も続けていってほしい。
- ・小中学校でも「自分で考える」「意欲的に」等、園と同じような目標が継続されているので大事にしていきたい事である。
- ・好きな遊びを見つけると意欲的に取り組むことに繋がると思う。まずは好きな遊びを見つけられるような環境を整えていく努力を続けていってほしい。
- ・子どもという大事な宝を育てていってください。